

第22回 胎内写真コンテスト

〈応募作品点数176点、応募者数56名〉

入賞作品 紹介

主催：一般社団法人 胎内市観光協会

第22回

胎内写真コンテスト作品募集!

応募締切

2023年(令和5年)

1月31日(火)

胎内市観光協会 必着



募集作品
テーマ

自然を主とした〈胎内の四季〉

〈ご注意ください〉応募形態が変わります!

応募先

- 一般社団法人胎内市観光協会(道の駅「胎内」)への郵送或いは、持込みのみ。
- ・郵送の場合…一般社団法人 胎内市観光協会
〒959-2806 新潟県胎内市下赤谷 387-1
TEL: 0254-47-2723 FAX: 0254-47-2737
- ・持参の場合…胎内市観光協会(事務局)までご持参ください。

応募形態

作品は、四ツ切サイズの銀塩プリント、または A4(インクジェット)に限りです。

注意事項

- ・応募作品は、原則として返却いたしません。
- ・応募作品は 2022年1月～2023年1月の間に撮影されたものに限りです。
- ・入選作品は、胎内市観光協会が関与する事業の広告媒体、ホームページなどで公開するなど、使用権は胎内市観光協会に帰属させていただきます。

賞

最優秀胎内市観光協会賞1点(賞金3万円)、新潟日報賞1点(賞金1万円)、胎内市観光 PR 大使賞、Lily&Marry's 賞など、入選12点、佳作若干。各賞状・副賞有。

審査委員長/特別審査員/審査委員

公益社団法人 日本写真家協会 会員：高橋 与兵衛/胎内市観光 PR 大使：長谷川玲奈、NPO 法人 Lily&Marry's：赤妻香織/新潟日報社 新潟総局 記者、胎内市観光協会 会長、胎内市役所 商工観光課、カメラ女子 in たいない 複数名。

応募方法、応募用紙、返却、注意点、審査方法、発表についての詳細はホームページ「胎内観光 NAVI」をご確認ください。

胎内観光 NAVI ホームページ▶





最優秀 胎内市観光協会賞

奈良橋真一 「初雪の朝」

胎内市を象徴する風景は、やはり田園、山村、飯豊連峰と言わば近景、中景、遠景を織り成す美しい姿を目にした時です。此処からは美しい山並み、林業、農業に勤しむ生活感が感じられ、この作品を見続けることによって誰もが安堵する。こうしたことから最優秀に相応しい作品と評価された。

技術的には、下辺の畦道が余りに太く強すぎるので半分くらいカットした方が良かったと思います。



新潟日報賞

新井勝義 「幸せ満開」

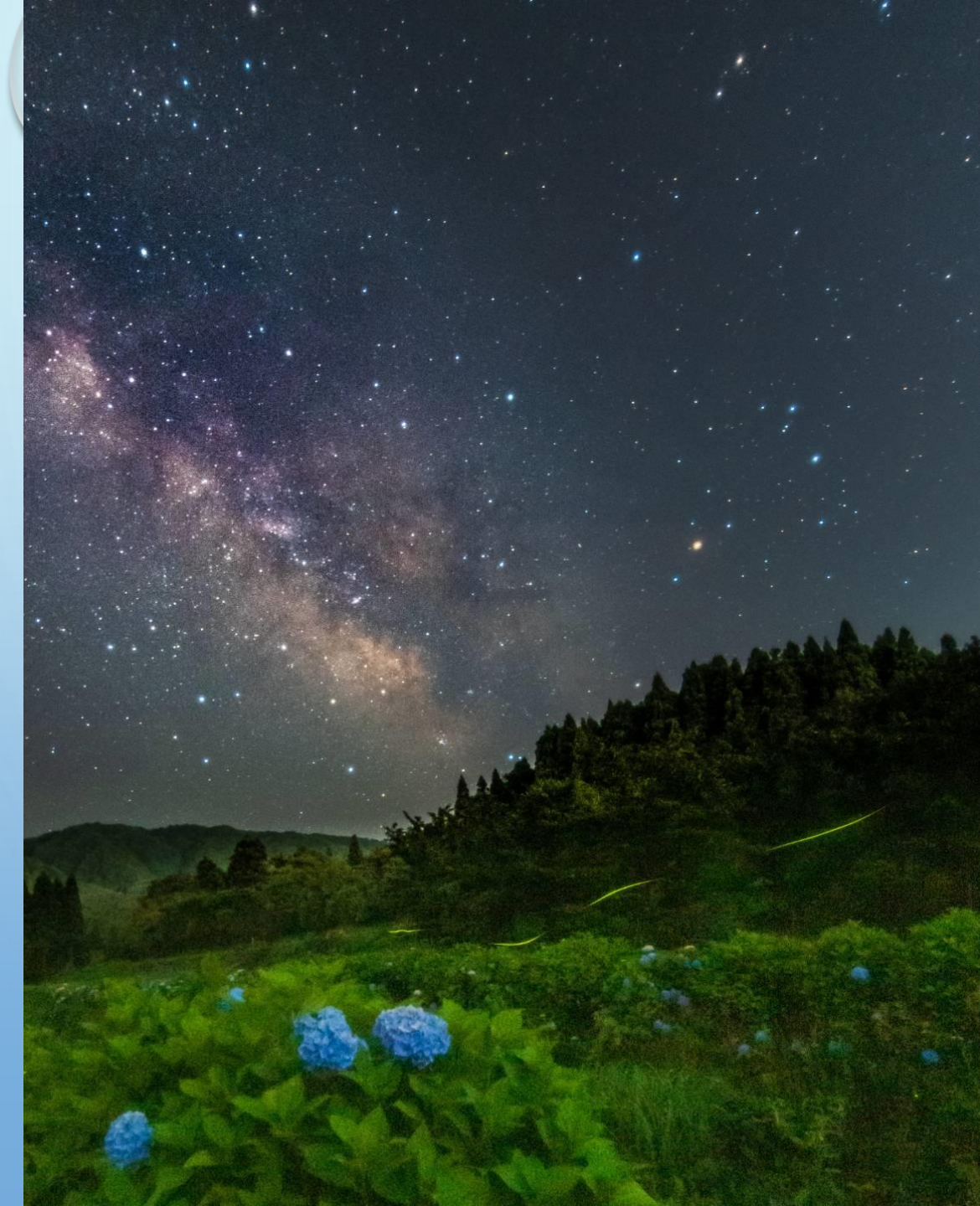
胎内市のチューリップフェスティバルでの結婚式、まさに“幸せ満開”です。
三人を取り巻くハート形のピンクのチューリップの輪が、花嫁と女の子の純白のウェディングドレスを引き立て、新郎のダークスーツが全体をまとめ上げているかのように思えます。
責任感に満ちた新郎、優しい眼差しの新婦、幸せ家族の誕生です。
技術的には、後方をぼかしたことで、画面整理が整いました。



胎内市観光PR大使賞

近 裕之 「夜の華」

桜の花を愛でる女の子、足元は見えないが伸びあがっているようです。夜桜見物に来て、余りに綺麗で届きそうなのでごく自然に手を伸ばしたと云った感じです。後ろに長く伸ばしたおさげ髪、感染防止のマスク姿、今の世を象徴する可愛い女の子の気持ちが伝わって来ます。花を愛でる純真で、素直な気持ちが伝わって来ます。



*Lily&Marry's*賞

大西理奈 「初夏のごあいさつ」

今では、全国的に有名になった〈胎内市の星空〉素晴らしいです。
構図的には星空を意識して紫陽花の位置を前景に決め、暗い森に
ホタルの光跡を配すことで初夏の彩を印象付けた見事な作品です。
この地を熟知した作者の努力が実りました。

カメラ女子inたいない賞 荻野泰奈 「元旦に降る雪」

国の重要文化財に指定されている、乙宝寺の三重塔。
「元旦に降る雪」と題している。この雪をストロボで捉え、塔の木組みを鮮明に写し出しており、しかも拝殿前の幕が元旦に相応しい雰囲気醸し出している。

乙宝寺では、この後2月6日には年最大の行事「お曼荼羅まつり」があり、賑わうのである。



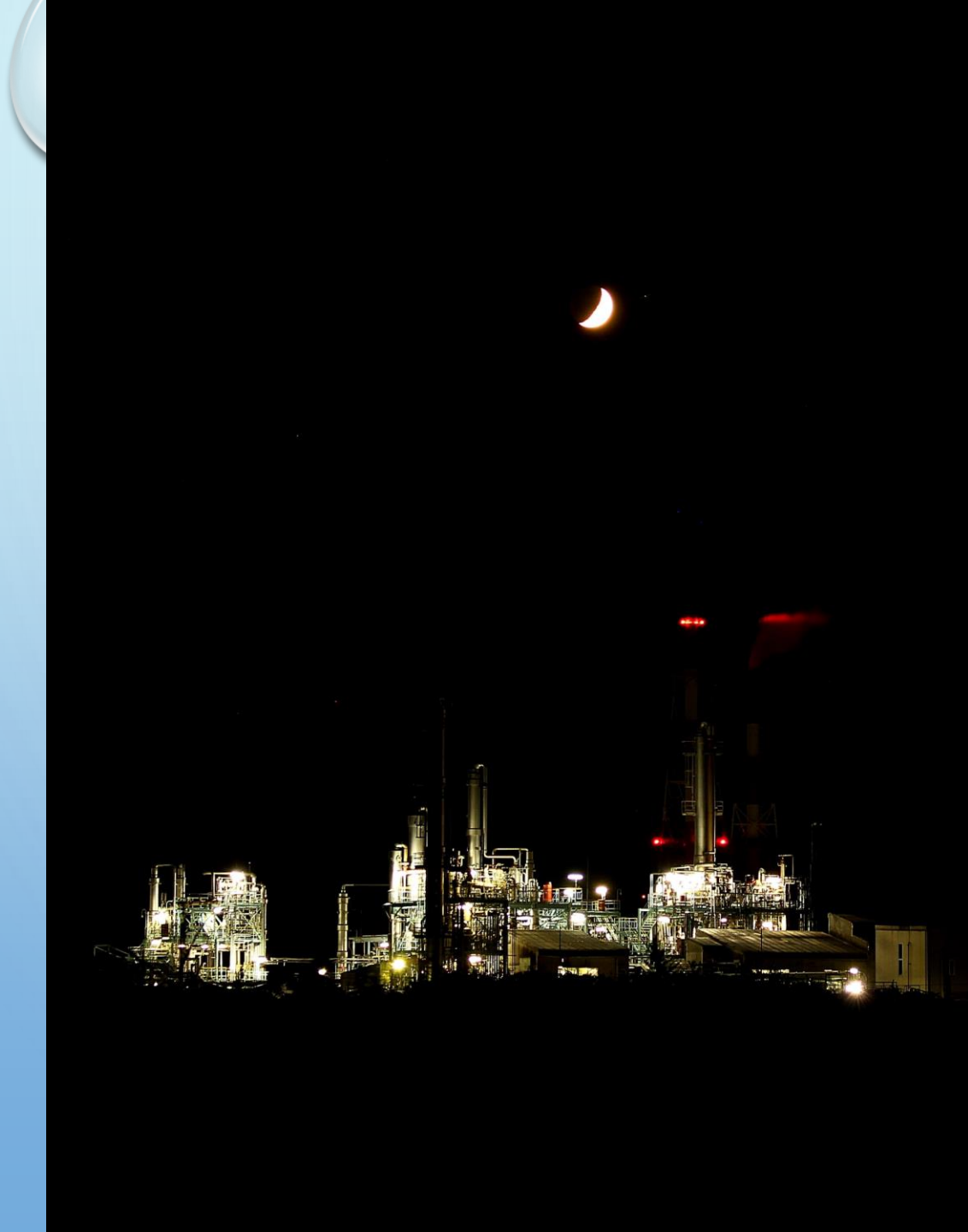


優 秀 賞

近 哲 也 「震える山」

風のせいで花火の煙が左方向に流れたことによって、背景の彩を形成し、かつ画面構成に感動をもたらしています。

日中にはスキヤーで賑わったゲレンデも、静かに明日を待っている穏やかな姿に感じられます。また、左下辺の千本桜の道には、多くの行きかう車が見えるのも賑わいの象徴です。



入 選

阿 部 久 「遠 灯」

胎内市の化学工場の夜景。暗闇に幾何学的な構造物が浮かび上がり、一種のアートを感じさせる。

現代では写真界に限らず、工業地帯や都会の夜景も、夜の観光として人気を集めている。

ただ、写真的には、光源の強弱や撮影時間帯に難しさがあり、思い通りの結果が得られないのが実態である。更に、月の位置や満ち欠けを考慮すると困難は倍加する。

作者は良く頑張りました。

入 選

三 浦 孝 磨 「カタクリの咲くころ」

ロイヤル胎内パークホテルをバックに、可憐な春の花が咲いた。カタクリは山地で咲くことで知られるが、都会的なシャレた雰囲気にも良く似合う。

花言葉には「初恋」あるいは「寂しさに耐える」、「嫉妬」等があるが、このホテルにも色んな思いを抱きながら泊まっているのであろう。

構図的には、右の樹木の位置をやや右に移し、後方のホテルの右側が見えた方がバランスが取れて、良かったと思います。





入 選

三 浦 孝 磨 「オットット大丈夫かな！！」

スノーボードに初めて乗った妹を、心配で支えようとする姉、姉妹愛に満ちた光景です。広いスキー場でのひとコマですが、良く捉えました。この後、妹は姉の心配をよそにうまく滑れたかも知れない。そんな二人の真剣な顔を見たいところですが、雰囲気は十分伝わって来ます。良い作品です。



入 選

羽 田 寿 弘 「1700年前の先人も見た星空」

四世紀前半の構築とされる「城の山古墳」の夜景。直径が約**39**メートルで日本海側では最北端で、若い人が埋葬されたとの説がある。夜景の撮影は困難を極めるが、作者は事前に何度も通い、星の位置を確認、古墳の向きと併せてこの作品となった。調査員が立ち入っている時は雑草もなく山肌が出ているが、今は鬱蒼として若い人の埋葬地として、相応しい空気感が漂っている。



入 選

齊藤正幸 「レジャースポーツの町。胎内市」

胎内川河口のカヌー体験。近くの県少年自然の家では例年、この季節にカヌー体験を行い、多くの少年少女が元気な声を出してオールを操っている。写真作品としては手前のカヌー、向こう岸に憩う一団、空にはハンググライダーと、巧みな構図に構成された素晴らしい作品になりました。



入 選

井 川 康 徳 「晩秋の奥胎内」

落葉で覆いつくされた、広場に立つ一人の女性。複雑な多くの悩みはこの一枚一枚の落ち葉に委ね、明日に向かって生きよう。そんな決意の姿にも見えます。赤い傘や、コスチュームが明色ならば色々あるが、明日からも希望を抱き元気に頑張ろう！！と云った姿にも見えてくるのではないのでしょうか？



佳作

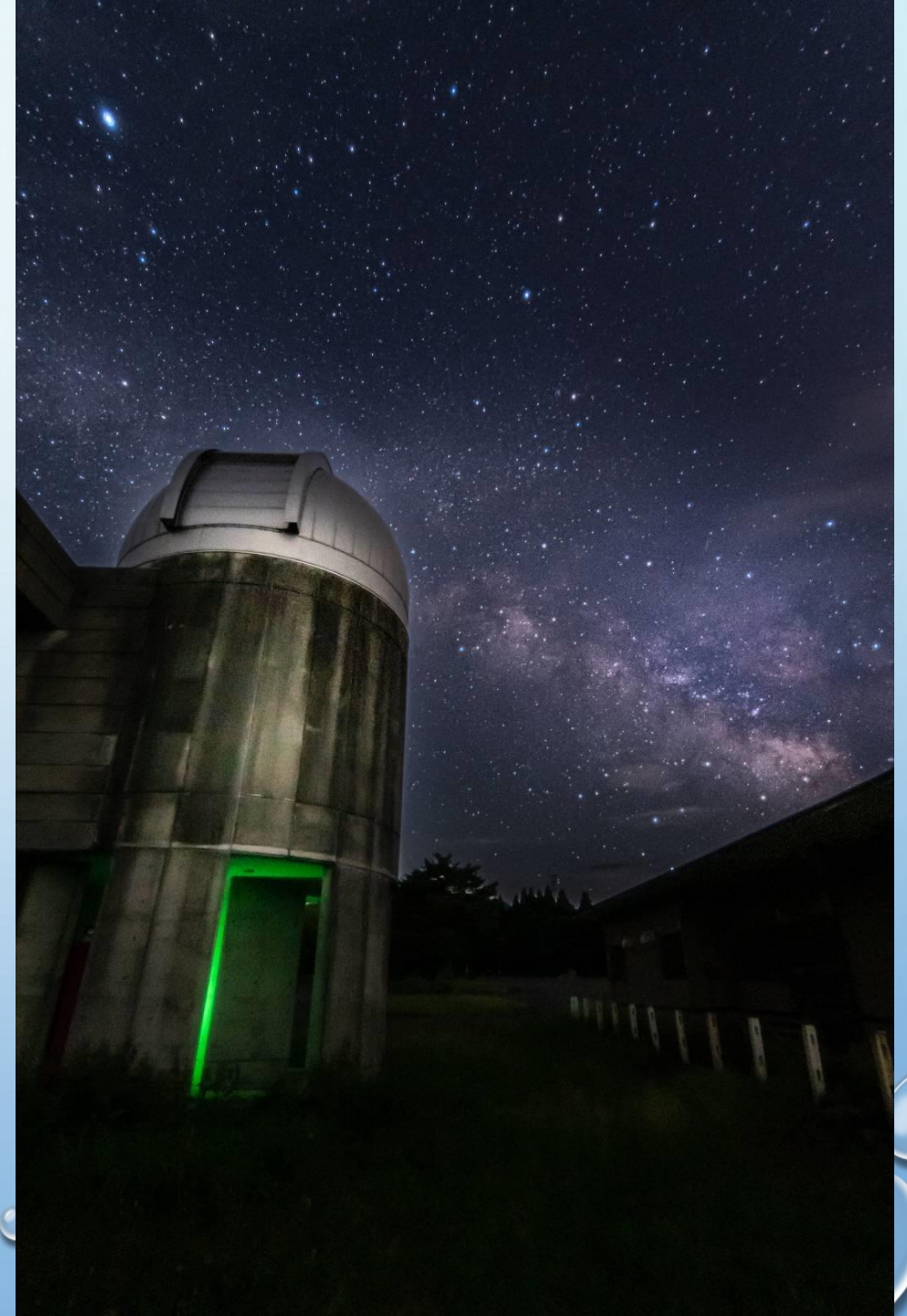
古田敏春 「坂井神楽舞」

坂井集落に文政年間(1818～1830)に伝わったとの伝承があり、このユーモラスな踊りも、神楽舞と共に今に伝わっている。通称：深靴(雪靴)にカンジキは雪道を歩くときに履く物、野良着を着けている事から、豊作を願いに田に入る、早る気をユーモラスに表現した踊りかも知れない。こちら向きの両手を開いて踊る人に焦点を当てたが、逆光で、顔の表情が暗いのが残念に思う。

佳 作

大 西 理 奈 「君を銀河へいざなう天文館」

満天の星空の中に、巨大な天文館の観測ドームが立っている。
この地は高台にあり、市街地からの灯りも入らない様に設計されており、遠方の木々の中からの星も見える凄さに感嘆する。出来れば、ドームに今少しストロボを程よく当てたら、立体感と強さが出たと思う。





佳 作

小 柳 康 代 「風の三日月」

夕暮れの発電用風車を上手く撮っていますし、三日月を支えるような羽の位置も良かったと思います。

問題は少女の所作についてであります。この場合、少女の顔を少し上げて三日月と、その先の発電部分に目をやり、手首を若干上向きにした方が、少女の心境が伝わってくるように思います。



佳作

榎本和彦 「春の樽ヶ橋」

春爛漫の樽ヶ橋、見事です。手前には青空に映える川面に水鳥が休息し、橋の右手には満開の桜、ここには「たるが橋観光交流センター」があり、賑わっています。

そして遥か前方には多くの残雪を抱いた飯豊連峰が聳えてきれいです。観光地としての拠点ではありますが、写真作品としては焦点を絞り、飯豊連峰、橋と桜、そして川面と縦位置でまとめた方が、力強い作品になったと思います。

審査を終えて

本年も市内外から、多くの作品を応募いただきありがとうございました。しかも応募方法を変え、応募期間も短かったにも拘わらず力作をお寄せいただき重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、審査に当たり直感的に 最優秀胎内市観光協会賞奈良橋真一さんの「初雪の朝」が、目に留まり、脳裏から離れませんでした。朝の飯豊連峰、前山には樹木の間伐や手入れの整った山林、そして手前の刈り取った春を待つ稲株の表情、素晴らしいです。現代は、山の管理は出来ない、高齢化が進み田畑の管理が不十分、そんな中、左手奥の家々の人達は山に田と共に生きている。この作品だけで安堵します。

新潟日報賞「幸せ満開」は、ほのぼのとした明るく幸せな雰囲気が伝わって来ます。

その他の佳作まで、新鮮味があり、力強い作品が多く、次回が楽しみです。何卒、次回も多くの応募を寄せられますことを切に願い、審査員を代表しての言葉といたします。

公益社団法人 日本写真家協会会員

胎内写真コンテスト審査委員長 高橋与兵衛